

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 115 号

令和 2 年 10・11・12 月



孔雀文刺繡幡 部分（正倉院宝物）

特別展

第72回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)
東・西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
－特集 神鹿の造形－
12月8日(火)～令和3年1月17日(日)
東新館

特集展示

新たに修理された文化財

12月22日(火)～令和3年1月17日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏教美術
12月8日(火)より
西新館

珠玉の仏たち

12月20日(日)まで
なら仏像館

名品展

中国古代青銅器
12月20日(日)まで
青銅器館

第72回 正倉院展

10月24日(土)～11月9日(月)



五色龍齒



色齋



平螺鈿背円鏡



馬鞍



墨絵漆筒 (部分)

本年の正倉院展は、薬物、武器・武具がまとまつて出陳されるほか、鏡、花氈、伎楽面、装束など、宝物の多彩な世界をご覧いただくことができます。薬物は光明皇后によつて東大寺に献納されました。目的は仏を供養とともに、病人の治療にあります。皇后は施薬院を創設するなど生涯にわたり病人の救濟を行いましたが、薬物献納もその一環です。正倉院の薬物を通して、奈良時代における病人の救済活動の一端をご覧いただくことができます。

正倉院にはかつて聖武天皇遺愛の武器・武具が四百件もありました。その大半は藤原仲麻呂の乱を平定するために倉を出でしました。現在、正倉院に伝わる武器・武具、馬具は、東大寺の備品であつたものが含まれているようです。今回は、大刀、弓、箭や胡禄、鞆、鉢、馬鞍が出陳され、奈良時代における代表的な武器・武具をご覧いただけます。

また、今回は種々の工芸技法を駆使し、美術的にも見応えのある宝物が多く出陳されます。中でも、近年の研究で材料や製作方法について新発見のあつた花氈と色氈、犀の文様が表されている平螺鈿背円鏡、曲芸や奇術などが細かく描かれている墨絵彈弓、正倉院刺繡を代表する孔雀文刺繡幡や紫皮裁文珠玉飾刺繡羅帯残欠、撥縫、螺鈿、木画などの工芸技法を駆使した桑木木画碁局など、正倉院宝物を代表する名品が出陳されます。

本年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、観覧には前売日時指定券をあらかじめお求めいただく必要があります。大変ご不便をおかけしますがよろしくお願いします。

**第72回正倉院展の観覧には前売日時指定券が必要となります。
当日券の販売はありませんのでご注意ください。**

前売日時指定券の販売は、9月26日(土)10:00より、ローソンチケット(Lコード57700、先着順)、チケットぴあ(Pコード763-373、電話0570-02-9999、先着順)、読売新聞オンラインチケットストア(抽選販売、申込期間9月26日～10月6日)にて行います。当館チケット売場での販売はありません。また、売り切れ次第販売を終了いたしますので、ご了承ください。詳細は展覧会チラシ、当館ホームページ、読売新聞オンライン正倉院展特設サイトをご確認ください。

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

—特集 神鹿の造形—

12月8日(火)～令和3年1月17日(日)



◎春日鹿曼荼羅(当館)〈12/8～12/20展示〉



鹿座仏舍利(奈良・春日大社)

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮神社の祭礼で、平安時代の保延二年（一一三六）に始まつたとされ、今年で八八五年目を迎えます。本展覧会は、絵画や文献史料、芸能資料等を通じて、おん祭の歴史と祭礼の様子を展示する恒例の企画で、今年十四回目を迎えます。本年は、おん祭を描いた絵画や祭礼に関連する品々をご紹介すると共に、春日信仰と関わりの深い神鹿に関する美術を特集いたします。春日の神とともに神聖視され、礼拝の対象となつた鹿。神々しく、時には愛らしいその姿を、様々な美術品を通してお楽しみいただきます。



紅葉鹿蒔絵小鼓(奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

12月22日(火)～令和3年1月17日(日)



◎道宣律師像(当館)修理の様子

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルで紹介いたします。

仏教美術の精華 法隆寺金堂壁画

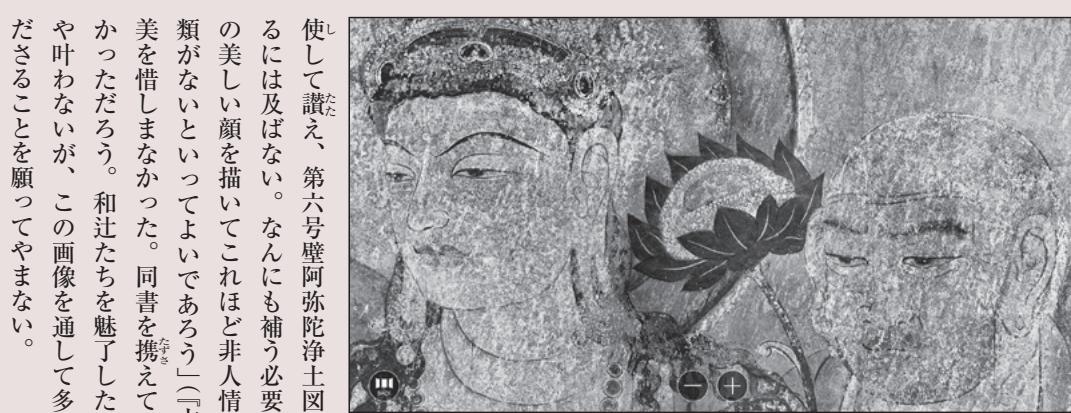
—写真ガラス原板デジタル画像の公開に寄せて—

当館情報サービス室長 宮崎 幹子

真夏日が続いていた今年の七月二十二日、聖徳太子の月忌（月命日）に、焼損前の法隆寺金堂壁画を記録した高精細画像がインターネットで公開された。昭和十年（一九三五）に撮影された写真ガラス原板から作られたこの画像は、昨年度の特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」の会場でも一部が展観された。その後スキャニングと接合作業が進み、壁画十二面のうち八面分までが揃った時点で公開の運びとなつた。

法隆寺金堂の外陣に描かれた壁画は、制作が七世紀後半から八世紀はじめにまで遡ると考えられているが、昭和二十四年（一九四九）一月二十六日の早朝に発生した不慮の火災によって甚大な損傷をこうむり、惜しくも表面の彩色が著しく損なわれてしまつた。この惨事の十四年前、法隆寺「昭和の大修理」の一環で撮影された原寸大分割写真（写真ガラス原板三百六十三枚。法隆寺蔵）は、焼損前の壁画の姿を克明にとどめた資料として、皮肉なことに火災によってその価値が高まつた。

平成二十七年（二〇一五）に写真ガラス原板が国的重要文化財（歴史資料部門）に指定されたのち、法隆寺では国庫補助事業によるクリーニングと保存箱の製作、デジタル化が進められている。今年度末となる事業完了後に展覧会等での披露が計画されていたが、今春からの寺院の拝観停止といった状況などを受け、より多くの皆様にご覧いただくためにインターネットでの一般公開が決まつた。デジタル化や画像公開にあたつては、法隆寺金堂壁画保存活用委員会や朝日新聞文化財団ほか、多くの関係者から協力や助言が得られた。



菩薩、花、羅漢を描きわける表情豊かな線に注目（第一号壁 部分）

ウェブサイトには公開後二か月ほどで三万三千件を超えるアクセスがあり、画像を介して知られる壁画の高い芸術性に感嘆の声が寄せられた。解説文は日本語と英語の併記としているが、アメリカの研究者から好評をいただき、さらに中国からも多くのお客様があつたことは嬉しい驚きだつた。インドのアジャンター石窟や中国の敦煌莫高窟の壁画と並んで称賛されてきた壁画ゆえ、画像公開をきっかけに東アジアや世界的な文脈で今後どのように語られていくのか楽しみである。

哲学者の和辻哲郎は、二十代の若き日に

法隆寺の崇高な美しさを情熱的な言葉を駆使して讃え、第六号壁阿弥陀浄土図について「この画の前にあつてはもうなにも考へるには及ばない。なんにも補う必要はない。ただながめて酔うのみである（中略）人の美しい顔を描いてこれほど非人情的な、超脱した清淨さを現わしたものは、まず比類がないといってよいであろう」（『古寺巡礼』大正八年（一九一九）初版発行）と贅美を惜しまなかつた。同書を携えて古都奈良をめぐり、壁画にまみえた人も少なくなかつただろう。和辻たちを魅了した焼損前の壁画を直に拝することは残念ながらもはや叶わないが、この画像を通して多くの皆様が壁画に接し、その魅力を心に刻んでください。

この写真ガラス原板は一枚が縦六十一センチ、横四十六センチほどの大きさで、スキンシング後に接合された巨大な画像は、四方四仏をあらわした大壁で約三百億画素、美麗しい菩薩を一体ずつ描いた小壁では百七十億画素という、これまでに公刊された図版に比してかつてないほどの精度を誇る。画像を丁寧に観察していくと、如来や菩薩の身体や毛髪をかたどる変化に富んだ描線、菩薩が手に執る花の葉や茎の毛などの微

出陳一覽

名品展
珠玉の仏たち

ならい像館

9月29日(火)～12月20日(日)

彫刻

第1室

如来立像

阿弥陀如来立像

藏王権現立像

阿弥陀如来立像(裸形)

◎力士立像

◎十一面觀音菩薩立像

◎虚空蔵菩薩坐像

◎文殊菩薩坐像

◎天部坐像

◎毘沙門天立像

◎力士立像



第3室

宝冠阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

火頭形三尊佛像

塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

明日香村教育委員会

安樂寿院

當館

當館

個人

東大寺

當館

當館

當館

當館

當館

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

◎力士立像

當館

鬼瓦(奈良県薬師寺出土)

京都国立博物館

隅木蓋瓦(伝奈良県薬師寺出土)

当館

塑像断片(鳥取県斎尾尾廢寺出土)

当館

◎塑像断片(奈良県薬師寺西塔出土)

薬師寺

博仏(大分県虚空藏寺跡出土)

当館

博仏(三重県夏見廃寺出土)

当館

●粟原寺三重塔伏鉢

談山神社

青白磁四耳壺(愛媛県石手寺経塚出土)

当館

○青磁碗・皿(島根県荻原古墓出土)

当館

○青磁牡丹唐草文深鉢

正暦寺

(奈良県正暦寺出土)

青森県伝尻八館遺跡出土

青森県立郷土館

○忍性骨蔵器

文化庁

泥塔経(鳥取県智積寺経塚出土)

長安寺

○滑石製弥勒如来像(永久三年銘)

当館

(長崎県鉢形嶺経塚出土)

正暦寺

泥塔経(鳥取県智積寺経塚出土)

当館

瓦経(鳥取県大日寺経塚出土)

當館

銅板法華経(大分県長安寺経塚出土)

當館

※滑石製弥勒如来像(永久三年銘)

當館

(奈良県正暦寺出土)

正暦寺

※青磁浮牡丹文香炉

青森県伝尻八館遺跡出土

青森県立郷土館

○一切経箱

當館

○厨子

當館

○宝相華文透彫経筒

當館

百万塔

當館

○釣灯籠

當館

○燭台

當館

○瓶鎮柄香炉

當館

○仏龜鉢

當館

○釣灯籠

當館

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月4日(日) 「描かれた東大寺大仏の姿」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

たび重なる兵火に遭いながらも復興を遂げ、今日も奈良の地に坐(いま)す東大寺の大仏。その姿はさまざまな絵画のなかにも表されてきました。描かれた東大寺大仏の姿から見えてくることについて考えてみたいと思います。

[受付期間／9月14日(月) 10:00～10月3日(土) 24:00]

■11月29日(日)

「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観」 野尻 忠(当館学芸部資料室長)

当館が保管する明治～昭和期の古写真の中には、仏像をはじめとする文化財だけでなく、人物や自然景観を撮影したものもあります。今回は奈良公園とその周辺で撮影された古写真を、現在の景観とともに紹介します。

[受付期間／11月9日(月) 10:00～11月28日(土) 24:00]

■12月20日(日) 「売立目録と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

明治時代末から昭和時代にかけて作成された売立目録は、美術作品の伝来や流通を考えるうえで重要です。仏像研究における売立目録の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

[受付期間／11月30日(月) 10:00～12月19日(土) 24:00]

■令和3年1月17日(日) 「文化財を科学するVII」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

絵画や彫刻など多くの文化財は彩色(着色)されています。今回は彩色材料を調べる方法とその彩色材料についてお話ししたいと思います。

[受付期間／12月28日(月) 10:00～1月16日(土) 24:00]

■令和3年2月21日(日) 「仏都会津のみほとけたち」

内藤 航(当館学芸部研究員)

福島県の会津地域は、平安時代のはじめに奈良の僧・徳一が訪れたことを契機に仏教文化が花開き、仏像も数多く造られました。奈良とは一味違う、魅力的なみほとけの数々をご紹介します。

[受付期間／2月1日(月) 10:00～2月20日(土) 24:00]

■令和3年3月21日(日)

「舍利信仰の美術—舍利容器の形から信仰を読み解く—」 内藤 栄(当館学芸部長)

鎌倉時代を中心に、日本で生まれた様々な形の舍利容器を紹介します。多様な形は多様な信仰や複雑な法要が背景にあることをお話しします。

[受付期間／3月1日(月) 10:00～3月20日(土・祝) 24:00]

【時 間】各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会 場】当館講堂

【定 員】各回90名（事前申込先着順）

【申込方法】※事前申込制となりました。

ご注意ください。

当館ホームページ「講座・催し物」内の「サンデートーク」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください（WEB申込のみとなります）。

[受付期間] 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。

※聴講には事前申込が必要です（当日申込でのご参加はできません）。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 第72回正倉院展 公開講座 ❖

■10月31日(土) 「正倉院の石葉とその素材」

鶴 真美 氏(宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員)

■11月7日(土) 「武器・武具の献納と薬物の献納について」

内藤 栄(当館学芸部長)

【時 間】13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】当館講堂

【定 員】90名（事前申込先着順）

【申込方法】※事前申込制となりました。

ご注意ください。

当館ホームページ「講座・催し物」内の「公開講座」応募フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください（WEB申込のみとなります）。

【受付期間】10月5日(月) 10:00～各講座開催前日24:00まで

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。

※聴講には事前申込が必要です（当日申込でのご参加はできません）。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 留学生の日関連イベント ❖

■11月28日(土) 「英語落語 in 奈良博」

笑う門には福来る！落語を英語で聞いて笑ってください。中学英語で十分楽しめるので、英語が得意でなくでも大丈夫です。

プロの落語家さんの手ほどきを受けたアマチュアの方々による英語落語です。

【時 間】14:00～15:30(13:15開場)

【会 場】当館講堂

【定 員】90名（申込先着順）

【演 目】①道具屋／英楽亭いろは
②いらち倬／英楽亭TOYO
③餅屋問答／英楽亭MT

【申込方法】ホームページ応募フォーム

当館ホームページ「講座・催し物」内の「英語落語」申込み画面より必要事項を入力の上、お申込みください。

【受付開始】10月23日(金) 11:00～

※参加無料。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力ををお願いいたします。

37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴及び当該地在住の方との濃厚接觸がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。

入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。
アルコール消毒や手洗いにご協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

こん こう みょう さい しょう おう きょう
金光明最勝王經 卷第二

国宝
紫紙金字
縦26.4cm
長798.0cm
奈良時代
(8世紀)
当館



紫色の染め紙に金色で文字を書く。金色の文字が燐然と輝き、紫紙に映える本品は、名品の多い奈良時代の写経の中でも、ひときわ目を引くものである。そして、この特別な写経が作られた目的は、聖武天皇が建立を進めた諸国国分寺の七重塔に納めるため、であった。よって、この紫紙金字『金光明最勝王經』は、当時の國の数だけ作られたと推定され、正倉院に伝わる古文書によると、天平18年(746)に写経が概ね完成したときには71セットあった(1セットは10巻)。それから1250年以上を経た現代に残っているのは、2セットと、端本が数巻である。

さて、本品は、経文の書かれた本紙が良い状態で残るだけでなく、表紙も製作当初のままであり、外題の金字も美しい。そのため展示会場では卷頭付近にお目にかかることが多いが、今回はあえて巻末付近を図版に掲げた。金字の美しさは、巻頭でも巻末でも異なることはない。ただ残念ながら、巻末の軸は後世に補われたもので、本紙の左端も少し切り落とされている。今は残らない軸だが、国分寺の七重塔に納められた当時、軸の上下の端はガラスや瑪瑙、水晶などの材で飾られていたことが、正倉院の古文書から知られる。その姿を想像してみると、この写経がいかに莊嚴の尽くされたもので、特別な品であったかということに、改めて気付かされるのである。

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

◆西新館 名品展「珠玉の佛教美術」にて、12月8日から展示

展示品の
みどころ

くしゃまんだら
俱舍曼荼羅

国宝
絹本着色
縦164.5cm 横176.6cm
平安時代(12世紀)
奈良・東大寺

くしゃじゅう
俱舍宗は奈良時

代に公認された仏教
の六学派(南都六
宗)のひとつである。

本図は中央上より
釈迦三尊を、それを



囲んでインド人の俱舍宗祖師10人を描き、四隅に四天王、左右辺の中ほどに梵天、帝釈天を表す。鮮やかな色彩で構成される大画面は見る者を引きつける。

釈迦三尊に比して祖師の姿が長大である一方、梵釈四天王は小さくかつ並列的に配されるなど構図には特色があるが、このことは本図の成立に起因するとみられる。釈迦三尊は東大寺に伝來した法華堂根本曼荼羅(ボストン美術館蔵)、祖師は東大寺大仏殿に安置された600余枚の屏絵、梵釈四天王は東大寺戒壇院に納められた華厳經厨子の屏絵といふいずれも8世紀にさかのぼる別々の絵画から大きさも含めて写されたと考えられるのである。平安後期における俱舍学復興のなかで、天平、さらには仏教、俱舍宗の生まれた地インドへの回帰という意識のもとに描かれた作例として位置づけられている。

諸尊の肉身に賦された濃い隈取り、衣にあしらわれた量綱彩色や細やかな草花文などの表現には、奈良時代の趣が見て取れる。天平絵画の面影をしのばせるとともに、中世の南都における仏画制作のひとつの様相を伝える大作である。

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の佛教美術」にて、12月8日から展示

■開館日時(10月~12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

※正倉院展会期中の月～木曜日は、午前9時～午後6時

※正倉院展会期中の金・土・日曜日、祝日は午前9時～午後8時

■休館日／毎週月曜日、12月29日～31日、1月1日

※ただし11月23日(月・祝)は開館し、11月24日(火)は休館

※正倉院展会期中は無休

■なら仏像館・青銅器館の臨時休館について

令和2年12月21日(月)～令和3年2月22日(月)
の間、大規模な展示替えのため、なら仏像館・青銅器館は休館となります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

| | 一般 | 大学生 |
|--------|------|------|
| 個人(当日) | 700円 | 350円 |

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンバスマンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■前売日時指定券料金「第72回正倉院展」
(当日券の販売はありません)

| | 一般 | 中・高・大学生 |
|-----|--------|---------|
| 通常券 | 2,000円 | 1,500円 |

※団体料金はありません。

※販売方法につきましては、中面「第72回正倉院展」の記事をご確認ください。その他の券種等の詳細については、展覧会チラシ、当館ホームページ、販売新規オンライン正倉院展特設サイトにてご確認ください。



(交通案内)近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

*当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)

ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は94円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。